

令和6年度中学校武道授業(空手道)指導法研究事業



令和6年度中学校武道授業(空手道)指導法研究事業(主催=日本武道館・全日本空手道連盟・日本武道協議会、後援=スポーツ庁)は、5月11日、研究者10名、連盟事務局2名の計12名が出席して、日本武道館大会議室にて実施された。

本事業は中学校保健体育科における武道授業の充実へ向け、教育効果の上がる指導計画、指導内容、指導法、評価等について研究討議するもので、今回は8月実施予定の第15回全国空手道指導者研修会と、令和6年度学校武道推進事業について検討・協議された。

開講式では、^{くさかしゅうじ}日下修次公益財団法人全日本空手道連盟顧問と^{ながしまのぶや}永嶋信哉公益財団法人日本武道館振興部長による主催者挨拶の後、研究者を代表して、^{こやまさし}小山正辰研究者が挨拶を述べた。

開講式後、研究協議(1)「全国指導者研修会の実施内容について」では、8月に開催の第15回全国空手道指導者研修会に向けて、昨年度の反省や振り返り、課題について共有し、その改善に向けた話し合いを行った。より効果的な研修会の実現のために研修会における参加者の心理的安全性の確保や、使用する用具の安全性、グルーピングの方法等について検討した。

休憩を挟み、研究協議(2)「令和6年度学校武道推進事業について」及び、研究協議(3)「各研究者からの報告事項について」では、連盟事務局より、令和6年度における実施内容や予算計画に

ついて概要説明があり、継続事業の運営方法を協議した。

研究者は、アンケートの結果をもとに「学校訪問プロジェクト後、武道授業として空手道を行ってもらうためにはどうすればよいか」、「知的障がい以外の種別の障がいを持つ生徒にどのように空手道授業を行っていくか」など武道授業現場の現状や、個に応じた学びについて話し合いを行った。

また、日下顧問より「誰一人、取り残さない学びの実現」に向けて学びの多様化学校(不登校特例校)へのアプローチについても説明があった。

併せて、連盟事務局より令和6年度の目標として、空手道授業実施中学校1,000校の達成、運動部活動改革、地域合同部活動[空手道部]の創設推進、特別支援学校の授業採用及び小学校武道必修化への準備、第2回全国学校空手道コンクールの開催が挙げられた。

閉講式では、研究者代表の^{まえだとしあき}前田利明全日本空手道連盟常任理事の講評に続き、日下顧問、永嶋振興部長が主催者挨拶を述べ、予定していた内容をすべて終え、閉会となった。

